



埼玉スバル株式会社

環境経営レポート

2019年度

(期間 2019年4月～2020年3月)



EA21 推進事務局

発行日 2020年9月1日
改定日 2021年2月5日

目 次

<u>【会社概要】</u>	1
<u>【認証登録範囲】</u>	2
<u>【推進体制】</u>	3-1. 3-2
<u>【環境経営方針】</u>	4
<u>【環境経営目標】</u>	5-1. 5-2
<u>【環境活動計画】</u>	6
<u>【取組み結果、環境負荷の状況】</u>	7
<u>【環境経営目標達成状況と評価】</u>	8-1. 8-2
<u>【環境関連法規への違反、訴訟等の有無】</u>	9
<u>【代表者による評価】</u>	9

会社概要

(1) 事業所名

埼玉スバル株式会社

(2) 所在地

埼玉県さいたま市中央区上落合8-4-11

(3) 代表者名

代表取締役社長 吉澤 裕



(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 高橋 孟 勇
事務局長 総務部部长 秋山 浩
担当者 総務部課長代理 北原 弘 靖
連絡先 TEL 048-852-0137 FAX 048-711-9901

(5) 主たる事業の内容

スバル車の販売並びに付随する関連業務

1. 新車販売
2. 中古車販売
3. 車検・点検・一般修理・钣金
4. 自動車の部品、用品および関連商品の販売
5. 自動車リース
6. 自動車保険代理業務

(6) 事業の規模

年間売上高 約 212億円／年 (2019年度)

年間販売台数 8018台 (2019年度)

<新車…5008台、中古車…3010台>

従業員 402名 (2019年3月31日現在)

セールス	サービス	部品	その他	計
120人	177人	10人	95人	402人

拠点数

本社 1 新車スバル拠点 17
中古車拠点 6 整備钣金拠点 3

認証登録範囲

拠点		住所	工場 資格	組織 区分
1	本社	さいたま市中央区上落合8-4-11	-	A
2	与野店	さいたま市中央区上落合9-12-4	認証	C
3	川越店	川越市山田363	指定	C
4	越谷店	越谷市瓦曾根2-8-71	指定	C
5	川口店	川口市芝4434	指定	C
6	所沢店	所沢市上新井4-25-1	指定	C
7	大宮店	さいたま市北区吉野町2-230-1	指定	C
8	新座店	新座市大和田4-1-5	指定	C
9	本庄店	本庄市東台5-3-26	指定	C
10	春日部店	春日部市小淵588	指定	C
11	北本店	北本市深井6-82	指定	C
12	浦和店	さいたま市南区曲本1-17-19	指定	C
13	東松山店	東松山市六軒町22-8他	指定	C
14	鶴ヶ島店	鶴ヶ島市脚折町4-10-5	指定	C
15	熊谷店	熊谷市久下4-111	指定	C
16	久喜店	久喜市久喜本775-1	指定	C
17	CS大宮	さいたま市北区吉野町2-223	-	B
18	CS羽生	羽生市須影上360	認証	C
19	CS熊谷	熊谷市久下4-108	-	B
20	CS北本	北本市宮内5-26	-	B
21	三郷店	三郷市南蓮沼243-1	指定	C
22	CS岩槻	さいたま市岩槻区城南2-1-10	-	B
23	CS秩父	秩父市大野原1090	指定	C
24	富士見SS	入間郡三芳町竹間沢通西34-1	認証	D
25	熊谷SS	熊谷市広瀬118-1	指定	C
26	さきたまが-デン	行田市佐間野合1626	指定	D
27	大宮BP	さいたま市北区吉野町2-230-9	認証	E

*** 工場の資格**

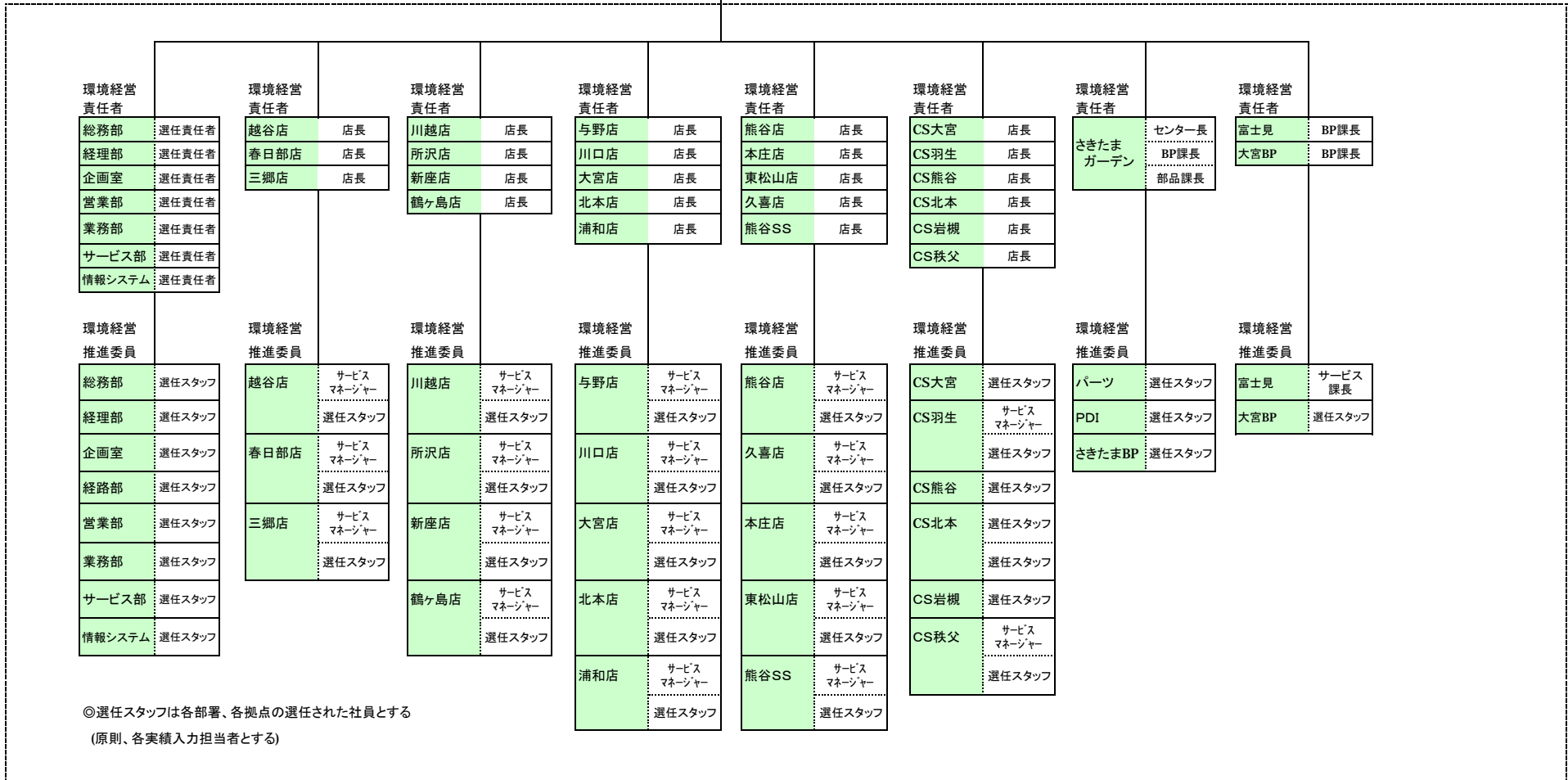
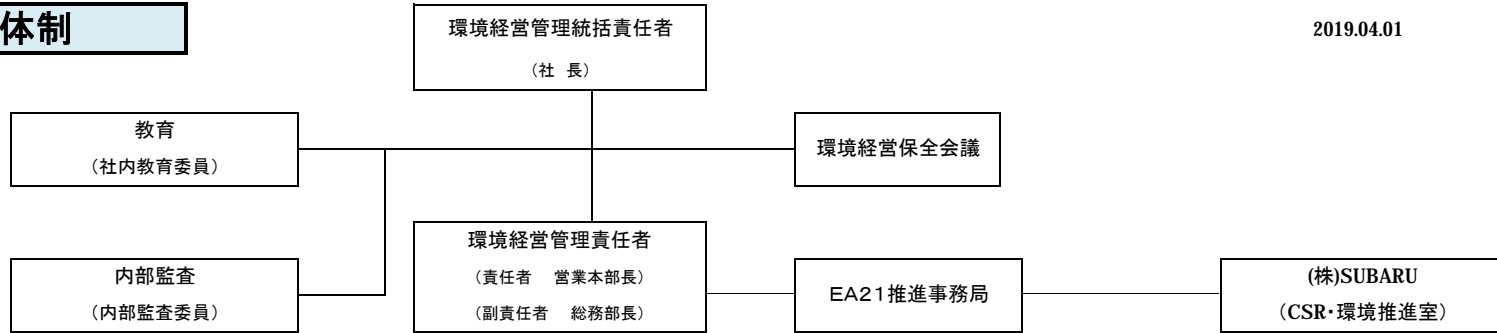
- ・指定は指定整備工場
- ・認証は認証工場

*** 組織区分**

- A = オフィス業務
- B = オフィス業務 + 販売
- C = オフィス業務 + 販売 + 整備
- D = オフィス業務 + 整備 + 钣金塗装
- E = オフィス業務 + 钣金塗装

推進体制

2019.04.01



役割・責任及び権限

担当者	役割、責任及び権限
環境経営管理統括責任者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営マネジメントシステム (EMS) 執行の最高責任者 ・環境経営方針を定める。また必要に応じ見直す ・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定める。 ・EMSの見直し (マネジメントレビュー) を行う ・要員 (人材)、設備、資金等の資源を経営上対応可能な範囲で用意する ・環境経営管理責任者を任命する
環境経営管理責任者 (専務)	<ul style="list-style-type: none"> ・本業の業務とは関わりなく、EMSを確立・実施・維持する責任と権限を有する ・環境経営方針、環境経営目標に沿って全社の環境経営活動実施計画書を作成する ・「環境法規制等とりまとめ一覧表」を作成し、最新状態を維持する ・環境経営マニュアル、手順書、帳票等の文書を維持管理する ・緊急事態の訓練を計画し、実施する。(拠点の実施を推進する) ・環境に関する行政機関対応の責任者 (法規制対応も含む) ・マネジメントレビューの報告情報を取り纏め報告する ・環境経営に係わる教育訓練を推進する ・外部からの苦情対応の責任者 ・内部監査委員の任命
環境経営管理副責任者 (総務部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記管理責任者の業務を補佐する
EA21推進事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営管理責任者を補佐し、EMSの確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う ・環境経営マニュアル・手順書・帳票等の見直し、最新版管理 ・各部門、各拠点との調整、情報の伝達 ・全社EMSの進捗管理、審査対応窓口 (外部との調整を含む) ・マネジメントレビューの情報収集・整理 ・(株)SUBARUの環境推進部門との窓口
環境経営保全会議	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営マネジメントシステム (EMS) 運営にあたり、環境経営管理責任者・環境経営管理副責任者EA21推進事務局が協議する。必要により統括責任者に意見具申する
内部監査委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全組織、全業務を対象とした監査を行う ・EA21のガイドライン、自社のルールに適合しているか監査する ・環境経営への取組み及びシステムが組織的に改善されているか監査する ・監査及び評価を行い代表者、環境経営管理責任者に報告をする
部門長 拠点経営推進責任者(拠点長)	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点長は各拠点の環境経営活動の実質的な実施責任者。 ・各拠点長は拠点特有の目標・環境経営活動計画野策定、拠点の数値化された目標達成に取り組む ・各拠点長は拠点内社員の教育、取り組みの確認・是正などを行なう ・各部門長は推進事務局と各拠点長の調整を行なう
環境経営推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各部長・各拠点責任者を補佐し、自部署、自拠点の環境活動を指導し推進する
一般従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営活動の重要性を自覚し、必要な環境教育訓練を受け、環境経営方針・環境経営目標・環境経営活動実施計画書に基づいて、日常の環境経営活動に取り組む

環境経営方針

<<基本理念>>

埼玉スバルが未来に亘り事業活動を継続していく上で、地域市民として郷土に貢献し、すばらしい地域環境と地球環境の構築のため、地域に密着した環境保全活動を行い、美しい「彩の国」埼玉を実現させることを基本理念とします。

<<基本方針>>

埼玉スバルが行う、自動車および部品の販売、加工、修理、再生業務等に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー、リサイクル、公害防止に配慮し、地域社会に、安心して住みよい環境が与えられるような活動を行います。
2. CO2の削減に努め、次世代の未来が、美しい環境であるよう、努めます。
3. 環境汚染を未然に防止し、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
4. 適用する環境関連の法規則、条例、および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
5. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境経営目標を設定し、積極的に取り組みます。
 - ①省エネルギーの推進(電力使用量の削減、ガソリン使用量の削減)
 - ②廃棄物の削減(一般廃棄物・産業廃棄物の排出量の削減)
 - ③水使用量の削減
 - ④化学物質の削減、適切な管理
 - ⑤環境配慮車(アイサイト車)の販売促進に努めます。
6. 業務の効率化に積極的に取り組み、省エネ・少資源化に繋がります。
7. 法定点検の促進・整備入庫車の促進とクレーム発生率削減に努めます。
8. 地域に密着した環境保全活動に積極的に参加し、貢献に努めます。
9. この環境経営方針を全従業員が共有し、啓蒙活動を推進し、内部コミュニティーの活性化を図り、環境保全活動に対する意識の高揚を図ります。

2021年2月5日改訂
埼玉スバル株式会社
取締役社長 吉澤 裕

環境経営目標

当社は、エコアクション21を取り組むにあたり、特に環境への負荷が大きいと思われる、電力・ガソリン・水の使用量・CO₂・廃棄物・化学物質の使用量、排出量を把握し、目標をもって削減に取り組みます。また、環境配慮車(アイサイト車)の販売を促進し、目標をもって拡販に取り組みます。

1. 2018年度の現状

環境負荷実績

当社における2018年度の環境負荷実績は、以下のとおり

項目		単位	2018年度	2018年度
			総量	台当たり
エネルギー 使用量	電力	kWh	1,969,791.00	8.299
	ガソリン	L	380,072.12	43.858
	都市ガス	m ³	5,207.00	8.123
	LPG	kg	16,667.43	10.691
	CO2排出量	kg-CO ₂	1,619,993.46	6.585
一般廃棄物総排出量		kg	145,908.10	0.593
産業廃棄物総排出量		kg	651,976.96	2.747
水使用量		m ³	17659	0.072
化学物質使用量		kg	869.62	0.366

※電力CO₂排出係数は平成30年度の出光グリーンパワー排出係数0.324kg-CO₂/kWhで算出

※産業廃棄物総排出量は有価物(廃油、廃バッテリー、廃バンパー)排出量も含めて算出

※電力・産業廃棄物は整備台数の1台あたりの実績

※ガソリンは販売台数(新車+中古車)の1台あたりの実績

※都市ガス、LPGは自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

※CO₂排出量・一般廃棄物排出量・水使用量は(販売台数+整備台数)の1台あたりの実績

※化学物質はPRTR対象物質使用量とし自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

環境配慮車(アイサイト車)の販売促進への取り組み

当社における2018年度の環境配慮車(アイサイト車)の販売比率は以下の通り

項目	2018年度
登録車台数	4381台
(内数)アイサイト車	4128台
アイサイト比率	94.2%

2. 環境経営目標

環境負荷削減目標

2018年度を基準年として取り組みます。

エコアクション21では環境負荷実績を台当たり(原単位)で目標設定します。

項目		単位	2018年度(基準年)	2019年度	2020年度
			台当たり	台当たり	台当たり
エネルギー 使用量	電力	kWh	8.299	8.216	8.133
	ガソリン	L	43.858	43.419	42.981
	CO2排出量	kg-CO ₂	6.585	6.519	6.453
一般廃棄物総排出量		kg	0.593	0.587	0.581
産業廃棄物総排出量		kg	2.747	2.719	2.692
水使用量		m ³	0.072	0.071	0.070
化学物質使用量		kg	0.366	0.362	0.358

※電力CO2排出係数は平成30年度の出光グリーンパワー排出係数0.324kg-CO₂/kWhで算出

※産業廃棄物総排出量は有価物(廃油、廃バッテリー、廃バンパー)排出量も含めて算出

※電力・産業廃棄物は整備台数の1台あたりの実績

※ガソリンは販売台数(新車+中古車)の1台あたりの実績

※都市ガス、LPGは自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

※CO2排出量・一般廃棄物排出量・水使用量は(販売台数+整備台数)の1台あたりの実績

※化学物質はPRTR対象物質使用量とし自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

環境配慮車(アイサイト車)の販売目標

環境配慮車(アイサイト車)の販売目標は登録車台数内のアイサイト車比率で目標設定します。

項目	2019年度	2020年度
アイサイト車販売比率	95.0%	95.0%

2019 年度 環境経営活動計画

項目		中期計画 (2017年度～2019年度)	2019年度活動計画
環境 負荷 項目	エネルギー	電力	業務効率、作業効率アップ 早期受注・早期予約 出社時間厳守 PC起動はAM9:30以降 代車満タン貸し満タン返しの徹底 アイドリングストップ、社 用車定期点検整備の実施、エコ ドライブの推進 照明器具の省エネタイプへの切 替
	ガソリン	①台当たり量の対前年比1%削 減を目指す。 ②随時、省エネ機器への代替を 促進。 ③業務効率アップによる削減を目 指す。	
	CO2		
	総排水量	台当たり量の対前年比1%削減を 目指す。	洗車効率のアップ 洗車機エコモード設定 下部洗浄機の活用
	一般廃棄物排出	台当たり量の対前年比1%削減を 目指す。	電子文書の積極使用 分別の徹底
産業廃棄物排出	台当たり量の対前年比1%削減を 目指す。	分別の徹底。 廃バンパーのリサイクル回収シス テムへの排出徹底。 マニフェストの管理運用の徹底。 リビルト品の活用	
化学物質	①PRTR、VOCの管理の徹底。 ②水性塗料の利用促進。 ③台当たり量の対前年比1%削 減を目指す。	水性塗料利用の促進 廃シンナー再生機の活用	
環境配慮車(アイサイト車)の 販売促進	EyeSight車の販売比率90%以上	EyeSight車の販売促進、 EyeSight車の販売比率95%以 上 試乗会開催、体験イベントの開 催	
推進項目	エコカーの導入促進	環境対応車(新型車)への代替促 進	
	法定点検・車検の入庫推進	早期車検予約、定検予約の促進 マイスバル(SNS)への加入促進	
	入庫管理・行程管理の精度をあげ、 効率的運営による作業時間 短縮。	壁面表、スマートボードの活用 の徹底 時間単位の入庫予約推進	

取り組み結果、環境負荷の状況

環境への負荷の状況(取りまとめ表)

(総使用量、総排出量)

項目		年度 単位	2017年度 総量	2018年度 総量	2019年度 総量
エネルギー 使用量	電力	kWh	2,186,094.20	1,969,791.00	1,806,501.00
	ガソリン	L	395,374.78	380,072.12	313,006.77
	軽油	L	17,006.30	14,419.83	10,704.15
	灯油	L	1,560.62	627.02	153.00
	都市ガス	m ³	3,577.00	5,207.00	6,632.00
	LPG	kg	15,288.61	16,667.43	16,047.88
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	1,726,918.35	1,619,993.46	1,401,948.47
一般廃棄物総排出量		kg	142,577.25	145,908.10	139,021.02
産業廃棄物総排出量		kg	547,216.80	651,976.96	567,915.52
水使用量		m ³	17889.00	17659.00	16641.00
化学物質使用量		kg	965.95	869.62	916.93

※電力CO₂排出係数は平成30年度の出光グリーンパワー排出係数0.324kg-CO₂/kWhで算出

※産業廃棄物総排出量は有価物(廃油、廃バッテリー、廃バンパー)排出量も含めて算出

(台当たり使用量、台当たり排出量)

項目		年度 単位	2017年度 台当たり量	2018年度 台当たり量	2019年度 台当たり量
エネルギー 使用 量	電力	kWh	9.231	8.299	7.819
	ガソリン	L	39.107	43.858	39.038
	都市ガス	m ³	5.387	8.123	10.890
	LPG	kg	8.291	10.691	11.325
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	6.994	6.585	5.865
一般廃棄物排出量		kg	0.577	0.593	0.582
産業廃棄物排出量		kg	2.311	2.747	2.458
水使用量		m ³	0.072	0.072	0.070
化学物質使用量		kg	0.398	0.366	0.408

※電力CO₂排出係数は平成30年度の出光グリーンパワー排出係数0.324kg-CO₂/kWhで算出

※産業廃棄物総排出量は有価物(廃油、廃バッテリー、廃バンパー)排出量も含めて算出

※電力使用量・産業廃棄物排出量は整備台数の1台あたりで算出

※ガソリン使用量は販売台数(新車+中古車)の1台あたりで算出

※CO₂排出量・水使用量・一般廃棄物排出量は(販売台数+整備台数)の1台あたりで算出

※化学物質使用量はPRTR対象物質使用量とし自社板金塗装実施台数の1台あたりで算出

環境配慮車(アイサイト車)の販売促進への取り組み

<新車登録車におけるアイサイト車販売比率>

項目	2017年度	2018年度	2019年度
登録車台数	5372台	4381台	4268台
(内数)アイサイト車	5026台	4128台	3894台
アイサイト比率	93.6%	94.2%	91.2%

環境経営目標達成状況と評価

環境への負荷実績と評価

項目	単位	2019年度目標値	2019年度実績値	削減率	評価	
		台当たり(原単位目標)	台当たり(原単位実績)			
エネルギー -使用量	電力	kWh	8.216	7.819	5.8%	◎
	ガソリン	L	43.419	39.038	11.0%	◎
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	6.519	5.865	10.9%	◎
一般廃棄物総排出量	kg	0.587	0.582	1.9%	◎	
産業廃棄物総排出量	kg	2.719	2.458	10.5%	◎	
水使用量	m ³	0.071	0.070	3.0%	◎	
化学物質使用量	kg	0.362	0.408	-11.7%	△	

※電力CO₂排出係数は平成30年度の出光グリーンパワー排出係数0.324kg-CO₂/kWhで算出

※産業廃棄物総排出量は有価物(廃油、廃バッテリー、廃バンパー)排出量も含めて算出

※電力使用量・産業廃棄物排出量は整備台数の1台あたりで算出

※ガソリン使用量は販売台数(新車+中古車)の1台あたりで算出

※CO₂排出量・水使用量・一般廃棄物排出量は(販売台数+整備台数)の1台あたりで算出

※化学物質使用量はPRTR対象物質使用量とし自社板金塗装実施台数の1台あたりで算出

環境配慮車(アイサイト車)の販売促進への取り組み実績と評価

項目	2019年度目標値	2019年度実績値	評価
アイサイト比率	95.0%	91.2%	△

環境経営目標を達成するための取り組みと評価、次年度の取り組み

① 電力使用量削減

店舗改装、照明交換時は随時LED照明を導入しました。また、工場設備機器交換の際は節電タイプを導入しました。業務においては前年同様、業務効率化および平準化を最重点項目として取り組みました。また、サービス部門においては、市場対策(リコール)台数が減少しつつあり、車検点検一般整備の予約の徹底を図り、効率的な作業による作業時間の短縮を図りました。

以上の取り組みの結果、台当たり電力使用量の削減、目標達成することができました。

次年度も今年度の取り組みを継続して使用量削減に取り組めます。

② ガソリン使用量の削減

試乗車、社用車入替時の低燃費車両の導入、市場対策(リコール)対応用社用車(レンタカー含む)の削減等で削減を図ることができました。

社用車の増車、満タン返しの徹底を始めとしては効率の良い業務活動に努め削減を図っていきます。

③ CO₂排出量の削減

電力、燃料使用量の削減に取り組みCO₂排出量の削減を図っていきます。

電力会社が2019年4月にプレミアムグリーンパワー(株)と出光グリーンパワー(株)が合併し出光グリーンパワー(株)が存続会社となったため出光グリーンパワー(株)の平成30年度の排出係数で算出しました。

④ 一般廃棄物、産業廃棄物の削減

市場対策(リコール)台数が減少し、一般整備も減少したことにより産業廃棄物が削減されました。また、来店客数もそれに伴い減少し一般廃棄物も削減されました。

今後も、分別の徹底、適正処理、排出量の削減に取り組んでいきます。

⑤ 水使用量の削減

昨年同様に車体下部自動洗浄機の有効活用、節水への意識、効率アップ等を図りました。また、整備台数、販売台数の減少も排水量削減に繋がったと判断されます。次年度も継続して節水に努め削減に取り組みます。

⑥ 化学物質使用量の削減

水性塗料を率先して使用し、PRTR対象化学物質の削減に取り組みました。台当たり使用料は前年比増加しましたが、リヤ取扱車両のサイズアップ、アイサイト車率増加によるリヤ周り及び側面損傷車両が多く、それに伴うクリア塗装面積が増え、化学物質使用料の増加に繋がってしまいました。今後も水性塗料を率先して使用していきます。

⑦ 環境配慮車(アイサイト車)の販売促進への取り組み

新車販売対象車両の登録車についてはアイサイト装着率が高く、アイサイトの安全性、機能についてお客様にもほぼ認知されている状況となっています。今年度のアイサイト販売比率は多少低下しましたが、2020年1月～3月にWRX/STI販売終了による駆け込み需要が増え販売比率が86%となったことが要因です。今後も試乗会、イベント等において、より多くのお客様に安全性を体感していただくと共に積極的に販売促進していきます。

その他の取り組みと評価、次年度の取り組み

① 業務の効率化への取り組み

前年度の取り組みを継続し、点検整備の早期予約、時間単位での予約、ご来店促進、平日の入庫促進を図りました。また、出勤時刻の遵守、残業時間の削減に取り組みました。次年度も、継続して業務の効率化を図っていきます。

② 法定点検の促進・整備入庫車の促進とクレーム発生率削減への取り組み

車検、法定12ヶ月定期点検案内の早期連絡、マイスバルへの加入を更に促進し、次月の予約確保を推進しました。また、継続して技能教育研修を実施し、知識修得、技能修得、技術力向上に取り組みました。

③ 地域に密着した環境保全活動への取り組み

全社統一で毎月第2金曜日に店舗近隣の清掃活動を実施しました。また、出張でのイベント参加、アイサイト試乗会等も開催しました。次年度も継続して取り組んでいきます。

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規

遵守確認日 2019年12月22日

主な適用法規	要 求 事 項	遵守確認
浄化槽法	設置の届出・保守点検・水質検査	○
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
下水道法	排水施設の設置義務、届出	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正保管及び適正処理、業者との契約	○
騒音規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
振動規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、報告	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正処理	○
消防法	少量危険物取扱いの届出・表示・適正管理	○
省エネ法	エネルギー使用量の把握	○
グリーン購入法	環境に配慮した用品・事務用品、機器等の積極使用	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則・特定化学物質障害予防規則の遵守	○
NOx、PM法	排出量の報告	○
小型家電リサイクル法	小型家電の適正処理	○
家電リサイクル法	特定廃棄家電の適正処理	○
建設リサイクル法	該当工事実施時の市町村への事前届出	○
土壌汚染対策法	土壌に有害物質を漏らさない流さない、県知事への報告届出	○
フロン排出抑制法	空調機の簡易点検定期点検の実施、ガス漏れ時の使用中止	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

代表者による全体評価と見直し

「期 間」2019年4月1日～2020年3月31日

「実施日」2020年4月26日

「社長総括」

2019年度の実績、取組結果を確認しました。本業においては、新型コロナの影響で次年度の自動車業界の状況が不透明ではありますが、既存のお客様のフォロー活動を徹底しておこない、お客様満足度の向上、カバー率向上を図りき企業基盤のさらなる構築に取り組んでもらいたい。また、働き方改革の取り組みとして業務効率の向上を図ることで、エネルギー消費量の削減、残業削減に繋げるよう引き続き努力をお願いしたい。2019年度の環境実績において、取り組みの成果は確実に出ていと判断されますが、地球温暖化に起因すると思われる災害等が世界中で発生している中、全スタッフが地球環境や地球温暖化防止に強い意識を持って日頃の業務、活動に取り組むようにお願いします。